

このころから私は「グループ」に傾注しました。「カウンセリングは一對一」、「教師は一對四〇」だからです。構成的グループエンカウンター、非構成的エンカウンターグループ、Tグループ（感受性訓練、ST訓練とも称される）、MLT（マイクロ・ラボラトリー・トレーニング）、GWT（グループワーク・トレーニング）……などを約一〇年間学びました。

アクティブラーニング型授業に取り組もうとすると、どうしてもペアワークやグループワークを使うこととなります。しかし、普通の学びをしてきた先生たちには、グループを動かすための基礎訓練がありません。そのために、困難を感じる人が多いようです。この点、私はグループに関する実践的な学びを積み上げていたことが大いに役立ちました。

★ キャリア教育・コミュニケーション教育へ

B高校に一一年間勤務したあと、「教育相談の基盤をつくれ」とC高校に転勤を命じられました。そこではキャリア教育をテーマにした、総合的な学習の時間を始める直前でした。周囲の温かい誤解（カウンセリングやっているなら、キャリア教育も知っているでしょ）によって、プログラム開発委員になってしまいました。

泥縄式の学習の結果、「キャリア教育にグループワークは効果的」と知り、最初に「構成的グループエンカウンターエクササイズ」を提案しました。これに担任団は一斉に「ノー」。「私たちはあなたのように訓練を受けていないから不安」がその理由でした。なるほど、ごもつともです。ここを乗り越えるために編み出したのが「ワークシートを用いたグループワーク」でした。特別

な訓練は不要。多くの先生たちが安全に教室でグループワークをできるようになりました。

このあたりの経過と内容をブックレット（小林昭文『担任ができるコミュニケーション教育』ほんの森出版）にまとめたところ、それがリクルート社の雑誌に紹介され、キャリア教育関係の出会いが増え、キャリア教育の実践的研究の場が広がっていきました。

アクティブラーニング型授業に取り組もうとすると、「キャリア教育」の視点はとても重要です。授業の目的を単に「点数を上げること」ではなく、子どもたちの人間的な成長を目指し、社会人として必要な力を身につけさせることを意識しないと、表面的な授業開発になっていくような懸念を感じています。

これからアクティブラーニング型授業を実践しようとする方には、最新のキャリア発達理論を学ぶことも強くおすすめしたいところです。

★授業改善のための基礎力養成へ

「ワークシートを用いたグループワーク」で生徒たちが生き生きするのを目の当たりにし、「物理の授業もこんなふうにはできないだろうか？」と考え始めたところでD高校に転勤となりました。ここにはわずか三年間でしたが、授業改善のための三つの基礎力を得ました。

第一は、苦手の生物の授業を克服するために、パソコンソフトのパワーポイントに習熟できたことです。その手助けをしてくれた「先生」は子どもたちです。文字の大きさや色など、スライドの見やすさについての意見のおかげでプレゼンの腕を上げました。